

理数科 出前講義を実施しました。

6月29日（水）理数科1年生を対象とした出前講義を実施しました。

今回は、7月の校外学習で訪れる乗鞍岳の事前学習として、植物を観察する視点について学びました。

○講師 川窪 伸光 氏

（岐阜大学応用生物科学部 生産環境科学課程 教授）

○題目 植物と友達になる方法・身近な自然観察入門

○内容

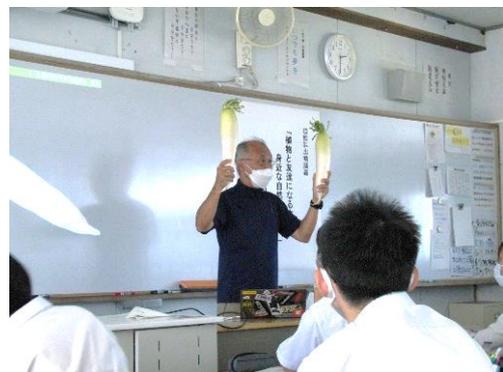
植物は、人間と共通点のある動物に比べると、全部が緑で、風景の一部と認識されがちであるが、ちょっとしたことに気を付けて観察してみると、とてつもなくの楽しく、美しく、興味深い生物である。身近にあるダイコンやニンジンなどの野菜に触れながら、観察の視点や五感を使う意義について



ユーモアを交えながら説明をしていただきました。校外学習で生徒たちが行く乗鞍岳の植生や世界各地でフィールドワークした体験についての話もとても興味深く、約1時間の講義はあっという間でした。

○生徒の感想

- ・動物に興味があったが、植物の方が面白いと思いました。見比べていろいろな事実を知っていくことの大切さを知りました。
- ・観察をするときには五感を大切にしないと、知りたいところまで知れないし、新しい発見もできないから、乗鞍ではしっかりと五感を働かせて観察したい。



・見る距離や視点を変え、そこで見つけた発見が知識となり、今後の視点になることが分かった。疑問が好奇心を生み、好奇心が強くなると他人の目が気にならなくなり、奇人となることが分かった。

・ダイコンやニンジンなど身近にあるものでも、細かく観察すると何かしらの規則性があることにとても興味を持ちました。

・ダイコンやニンジンの側根の列を気にしたことはなかったので、私が知らない、見ていないだけの秘密はもっとたくさんあって、それが他の植物にも共通してあるのだろうなと思いました。



・高山植物は、背丈が低いと思っていたけど、土の中に長く伸びており、先が出ているだけということに驚きました。実際に土の中を掘って確かめることは（許可がないと）できないけど、地面に出ている部分などをよく見てみたいと思いました。



・機械系の大学を希望していたが、生物にも興味を持った。

・自分も身の回りのものにどんどんクローズアップして、自分のやりたいことに熱量をもってやっていきたいと思った。